3. **論文の採否**：論文の採否は Editorial board のメンバーによる査読審査の結果に従い決定される．ただし，シンポジウムなどの記録や治験論文については編集部で採否を決定する．
4. **論文の訂正**：査読審査の結果，原稿の訂正を求められた場合は，40日以内に，訂正された原稿に訂正点を明示した手紙をつけて，前記泌尿器科紀要刊行会宛て送付すること，なお，Editor の責任において一部字句の訂正をすることがある．
5. **採択論文**：論文が採択された場合，原稿を3.5インチフロッピーディスク・MO ディスク・CD-R・CD-RW のいずれかに保存し，編集部へ送付する．ディスクには論文受付番号・筆頭著者名・機種名・ソフトウエアとそのバージョンを明記する．Windows の場合は MS-Word・一太郎，また Macintosh の場合は EG-Word・MS-Word とし，特に Macintosh においては MS-DOS テキストファイルに保存して提出すること．
6. **校正**：校正は著者による責任校正とする．著者複数の場合は校正責任者を投稿時指定する．
7. **掲載**：論文の掲載は採用順を原則とする．迅速掲載を希望するときは投稿時にその旨申し出ること．
   (1) 掲載料は1頁につき和文は5,775円（税込），英文は6,825円（税込），超過頁は1頁につき7,350円（税込），写真の製版代，凸版，トレース代，別冊，送料などは別に実費を申し受ける．
   (2) 迅速掲載には迅速掲載料を要する．5頁以内は31,500円（税込），6頁以上は1頁毎に10,500円（税込）を加算した額を申し受ける．
   (3) 薬剤の効果，測定試薬の成績，治療機器の使用などに関する治験論文および学会抄録については，掲載料を別途に申し受ける．
8. **別刷**：30部までは無料とし，それを超える部数については実費負担とする．著者校正時に部数を指定する．

Information for Authors Submitting Papers in English

1. Manuscripts, tables and figures must be submitted in three copies. Manuscripts should be typed double-spaced with wide margins on 8.5 by 11 inch paper. The text of all regular manuscripts should not exceed 12 typewritten pages, and that of a case report 6 pages. The abstract should not exceed 250 words and should contain no abbreviations.
2. The first page should contain the title, full names and affiliations of the authors, key words (no more than 5 words), and a running title consisting of the first author and two words.
   e.g.: Yamada, et al.: Prostatic cancer · PSAP
3. The list of references should include only those publications which are cited in the text. References should not exceed 30 readily available citations. Reference should be in the form of superscript numerals and should not be arranged alphabetically.
4. The title, the names and affiliations of the authors, and an abstract should be provided in Japanese.
5. For further details, refer to a recent journal.

編　集　後　記

先日，がん研究振興財団主催の第18回国際がん研究シンポジウム「Disputes or Controversies in Prostate Cancer Diagnosis and Treatment」が国立がんセンターで行われた．委員長はがんセンター総長の垣添先生で，米国，欧州，台湾，韓国，日本から招聘された約30名の前立腺がん専門医が各25分ずつの発表を行い，約200名の出席者も参加して活発な討論が行われた．このシンポジウムで泌尿器科がんが取り上げられたのは1991年以来14年ぶりとのことであったが，確かにこの14年間における前立腺がんの診断治療の進歩は驚くべきものであることが実感できた．また，Schröder 教授と Catalona 教授の PSA screening におけるディベートも見応えがあった．この両教授をはじめ，Messing 教授，Myers 教授，Scardino 教授の前立腺がんに対する見識やプレゼンテーション力のすばらしさに感心するいっぽうで，欧米を代表する泌尿器科医（泌尿器科研究者）がこの20年くらい新陳代謝していないことが気になった．欧米における若手泌尿器科医の研究離れが一因と想像するのは間違いであろうか．今月号の J. Urol. にも "Need for Surgeon-Scientists in Urology" なる editorial が掲載されているので一読いただきたい．

がんセンターは築地のマーケットのすぐそばに位置している．招聘された外国人たちはマグロの解体ショーを楽しんだと聞いているが，私はおいしい寿司をK助教授と堪能して帰路についた．

（小川　修）

泌尿器科紀要　第51巻　第2号　　2005年2月25日　印刷　　2005年2月28日　発行
発行　小　川　　修　　顧問　吉　田　　修　　発行所　泌尿器科紀要刊行会
〒606-8392 京都市左京区聖護院山王町18　メタボ岡崎301号　電 話（075）752-0100
FAX（075）752-0190
http://www.kiyou.jp/
印刷所　山代印刷株式会社　京都市上京区寺之内通小川西入